# 今後の自動車損害賠償保障制度のあり方に係る懇談会(あり方懇) WEB会議方式により開催 当会議所保険特別委員長の赤間立也・あり方懇委員が意見陳述 6,000 億円を超える繰入金の「早期返済」を訴える

土交通省・2021年度「今後の自動車損害賠償保障制度のあり方に係る懇談会(あり方懇)」がコロナ禍の中、6月4日にWEB会議方式により開催され、今回新たに「あり方懇」の委員に就任した当会議所の赤間立也保険特別委員長(日本通運執行役員)が意見を陳述した。

赤間委員は、自動車安全特別会計から一般会計に 約6,000億円が繰り入れられたままになっている問題について、「2021年度予算において4年連続で増額され繰り戻されたことや、2020年度第3次補正予算で8億円余りの追加の繰戻しがなされ、コロナ禍においても交通事故被害者が十分な介護サービスを受けられるよう介護者の待遇改善や人材確保に関わ る支援が盛り込まれたことは評価する。一方で、いまだ6,000億円を超える繰入金が繰り戻されていない状況に対して積立金が枯渇することのないよう早期返済が必要 | と訴えた。

また、国土交通大臣と財務大臣の間で交わされた 書面合意は2022年度が返済期限となっており、本年、 新たな合意が必要となることに対して、「新たな大 臣間合意では、毎年の交渉により繰り戻し額を決定 するのではなく、将来を見据えた返済のロードマッ プを提示すべき」と求めた。

「あり方懇」では他の委員からも同趣旨の発言が 多くなされた。

(詳細については次号で紹介)



本自動車会議所は4月19日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で、第85回運営委員会(委員長=永塚誠一・日本自動車工業会副会長)を開催、5月26日に開催する第87回定時総会および第211回理事会の上程議案について審議した。新型コロナウイルス感染防止の観点から、出席者の半数以上がリモートでの出席となった。

山岡正博専務理事の挨拶および新委員紹介、永塚 委員長の議事進行に続いて、畠山太作常務理事が第 87回定時総会上程議案(第210回理事会上程議案) の①2020年度事業実績・2021年度事業計画案(含む 役員体制見直し)および②2020年度決算・2021年度 予算案、③定款変更、④理事選任の4議案について 説明。また、第211回理事会上程議案である①副会 長選定、②名誉顧問委嘱、③運営審議委員の選定方 法および委員会規程の3議案について説明。審議・ 意見交換を経て、すべての議案は承認され、委員会は閉会となった。

その後、第210回理事会は書面開催され、すべての議案は承認された(決議日:5月10日)。



日本自動車会議所は4月22日、 東京都港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で第272回会 員研修会を開催した。「コロナ禍 の経営戦略におけるDX(デジタ ルトランスフォーメーション)の



近田 高志氏

取り組み状況と課題」をテーマに、講師には一般社団法人日本能率協会KAIKA研究所の近田高志所長を迎えた。新型コロナウイルス感染拡大を受け、会場ではソーシャルディスタンスなどを実施。今回も引き続き、全国自動車会議所など一部会員向けにリモートでも配信し、計約40人が参加した。

講演では、日本能率協会が全国の経営者らを対象

に実施した調査を基に、当面の経営課題として「デジタル技術の活用・戦略的投資」の比率が上昇していると説明。テレワークなど多様な働き方の導入も 大幅に増加していると指摘した。

近田氏はコロナ禍で経営課題に対する認識が大きく変化しており、「柔軟な働き方・勤務形態の拡充、ITを活用した新商品・サービス・事業の開発などの対応を重視しなければならない」とDXの必要性を訴えた。

大手企業での取り組みが目立つ半面、中小企業は 関心も高いものの、「DX推進に関わる人材不足が最 大の課題」と強調した。



日本自動車会議所は5月18日、 東京都港区の日本自動車会館「く るまプラザ」会議室で第273回会 員研修会を日本自動車工業会と連 携して開催し、「日本パラリンピ ック委員会」(JPC) 委員長でパ



河合 純一氏

ラリンピック元競泳選手でもある河合純一氏が、「パラリンピックを通じて考える共生社会」をテーマに 講演した。新型コロナウイルス感染対策として、会 場ではソーシャルディスタンスなどを実施。今回も 一部会員向けにリモートで配信し、計約50人が参加 した。

講演では、JPCのミッションとして「世界を目指すパラアスリートの活躍を支援し、スポーツを通し

### <sup>令和3年</sup> 「春の叙勲・褒章」 (2021年)

## 当会議所関係者多数が受章

令和3年(2021年)春の叙勲ならびに褒章で、 日本自動車会議所の会員団体・企業関係など多 数の方々が晴れの栄誉に輝かれた。

叙勲では、元日本自動車部品工業会会長で元リケン社長の岡野教忠氏が旭日小綬章を、元三重県自動車会議所理事の出口民雄氏が旭日双光章を、元全日本指定自動車教習所協会連合会会長で元警察庁長官の片桐裕氏が瑞宝重光章を、元当会議所常任理事で元日本自動車輸入組合副理事長兼専務理事の大慈弥隆人氏、元日本自動車連盟専務理事で日本自動車輸送技術協会会長の久米正一氏が瑞宝中綬章を受章された。

褒章では、元トヨタ自動車副社長の加藤光久 氏が藍綬褒章を、元愛知県自動車会議所副会長 の寺岡洋一氏が黄綬褒章を受章された。

て世の中の人に気付きを与えるパラリンピックムー ブメントを推進する」ことを挙げた。

障がいそのものについては「個人の側にあるのではなく、社会が生み出しているものととらえてほしい」などと訴えた。

河合氏は、東京パラリンピックが①全員が自己ベスト②多様性と調和③未来への継承 - - の3つをコンセプトとしていると説明。世界的なコロナ感染拡大にも触れ「日常の『当たり前』を奪ったが、1年延期された東京パラリンピックは安全・安心な大会として成功させ、次の世代につなげるものを残していきたい」と力を込めた。

### 事務局長兼企画部長に大谷 英史氏 日本自動車会議所

日本自動車会議所の事務局長兼 企画部長に6月1日付で本田技研 工業㈱出身の大谷英史氏が就任し た。前任者の石田喜三氏は日本自



動車会議所を退職し、6月1日付で㈱本田技術研究

所先進技術研究所に帰任した。

#### 大谷 英史(おおたに・ひでひと)氏略歴

1998年、本田技研工業㈱入社。埼玉製作所に配属後、生産業務部施設管理課にて製作所の大気汚染・水質汚濁・騒音・振動の抑制、廃棄物のリサイクルやISO14001など工場環境に係る業務等を担当。施設管理課課長を経て、6月1日より当会議所事務局長兼企画部長に就任。北海道出身、50歳。